

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **56** 号

平成18年 1・2・3月



二月堂縁起絵巻 上巻 (東大寺)

特別展

金沢文庫の名宝

—鎌倉武家文化の精華—
～1月15日(日)

東・西新館

東大寺公慶上人

—江戸時代の大仏復興と奈良—
～1月15日(日)

西新館

特別陳列

お水取り

2月14日(火)～3月21日(火・祝)

東新館

平常展

仏教美術の名品

本館 1月2日(月)～：平常開館

西新館 1月28日(土)～3月26日(日)

中国古代青銅器

本館 1月2日(月)～：平常開館

特別陳列

お水取り

会期
会場
主催

二月十四日(火)～三月二十一日(火・祝)
奈良国立博物館 東新館
奈良国立博物館・東大寺

東大寺二月堂の「お水取り」は、正しくは修二会といい、十二面観音に悔過をする行法です。

悔過とは、過ちを懺悔して除災招福を祈ること。

「お水取り」は奈良時代から一度の中断もなく続けられており、今年は千二百五十五回目にあたっています。

奈良に春を呼ぶ「お水取り」がおこなわれる時期にあわせ、「お水取り」に関連のある絵画・絵巻・図像・文書・工芸品などを、毎年内容を変えながら展示する恒例の展覧会ですが、第十回目にあたる今年は、聖武天皇千二百五十年御遠忌記念として、これまでの集大成となる充実した内容に加え、二月堂に籠もる練行衆以外は入ることを許されない二月堂内陣の様子を再現します。



二月堂曼荼羅 部分 (東大寺)



◎鏡【堂司鈴】(東大寺)



二月堂お水取り絵巻 部分 (個人)



◎二月堂本尊光背【身光】 部分 (東大寺)

平常展

仏教美術の名品

本館(彫刻・中国古代青銅器)

一月(日)月... 平常開館

西新館(考古・工芸・絵画・書跡)

一月二十八日(土)三月二十六日(日)

この春、仏教美術の殿堂が完全復活いたします。

特別展の開催に伴い、西新館での平常展(考古・工芸・絵画・書跡)がしばらくお休みとなりました。今度の平常展では、本館(彫刻・中国古代青銅器)と西新館において国宝約三十件、重要文化財百件以上(展示替え品含む)、そして新たな収蔵品も加えた仏教美術の名品が出揃います。これがあの有名な...、いつか本で見た...、そんな本物に出会えるかも知れません。作品によって展示替えがありますので、展示期間をご確認の上、ご来館下さい。

確認の上、ご来館下さい。



◎木造十一面観音立像(新薬師寺)



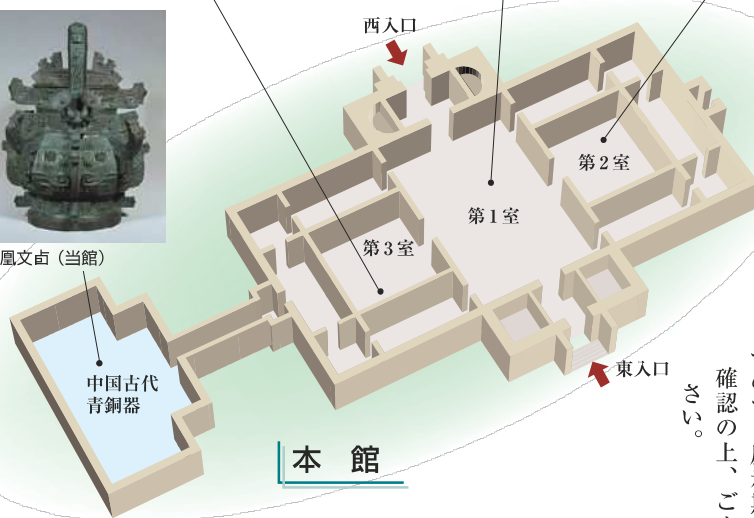
◎木心乾漆薬師如来立像(唐招提寺)



◎木造薬師如来坐像(当館)



鳳凰文占(当館)



本館



◎聖徳太子像(一乗寺) 1/28 ~ 2/26



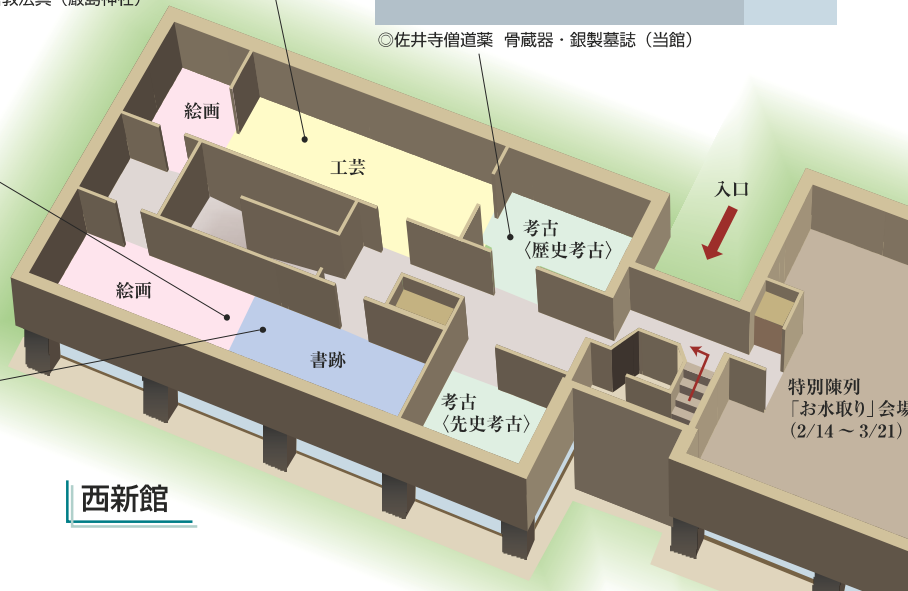
◎金銅密教法具(厳島神社)



◎佐井寺僧道業 骨蔵器・銀製墓誌(当館)



◎大般若経[長屋王願経](瑞光寺) 2/28 ~ 3/26



西新館

特別陳列
「お水取り」会場
(2/14 ~ 3/21)

展 示 評

外からみる奈良博



会場入口付近



観覧風景

国際化時代の中の奈良文化

第57回正倉院展を観て

ベルリン東洋美術館
アレクサンダー・ホフマン

今秋、文化庁のお招きにより、奈良国立博物館を訪ねる好機に恵まれた。ベルリンの喧騒を離れ、閑静な日本の古都で仏教美術にいそしもうと思っていた私には、正倉院展の賑わいぶりは驚き以上の戸惑いを覚えるものであった。

博物館には夥しい数の観覧者が押しかけており、中にはアジア諸国やはるばる欧米圏から駆けつけた人たちも大勢見かけた。近世絵画を専門に勉強してきた私にとって、これまで正倉院宝物に関心をほらうことが少なく、これ程に人を惹き付けるものなのか、正直いふかろいであつた。しかし、最初の展示室に足を運んだ途端、私は突然の衝撃に打たれてしまった。そこには汚れない宝物が、美しい照明を浴びながら上品に並んでいたのである。見回せば、展示室は広々しており、押し寄せる観覧者の流れが十分に考慮されている。しかもすべての作品を一つ一つ鑑賞できるように適切な間取りが工夫されている。最初に目を惹いたのは華麗な銅鏡とそれを収めた漆皮箱であつた。続いて複雑な象嵌を施したシタン材製の基盤（紫檀基局）や象牙で作られた基石（撥鏤基子）、その容器（銀平脱合子）が並ぶ。フェルトの敷物（花氈）やガラス器（瑠璃壺）、刀（唐大刀）なども見やすく展示されており、時の経つのを忘れる。次の展示室では古文書類、織物、布の面などが並び、最後の展示室には銀器（銀盤・銀提子）や木製の献物箱、献物机、象牙や犀角などの珍材が最後に飾っていた。秩序よく分類された宝物の数々は、中・近世ヨーロッパの貴族たちがキャビネットの中に並べたコレクションを彷彿とさせる。ただ、正倉院宝物は数世紀にもわたる年月を重ねている点で、それらすべてをはるかに凌ぐものであり、コレクションの歴史上これに匹敵するものはないであろう。

ところで、実際に正倉院展をみた人ならば、宝物が気の遠くなるような歳月を経ているにもかかわらず、この上ない状態を保っていることに誰もが驚くであろう。またその種類が多岐にわたっており、使われている素材や技術もまた豊富であることに驚くはずである。私が感じたの

は、この素晴らしい保存状態がひとえに宝物庫の精巧なデザインによるものなのかという疑問である。宝物が何に包まれ、それをどう収納してきただのか。茶道具の展示には袱紗や箱も一緒に並べられるが、もし可能であればそうした保存・収納方法を紹介する展示も面白いのではないかと思うのである。

また、英語版の図録が作られていたが、海外から訪れる観覧者にとってこれは実にありがたいものであり、奈良国立博物館のスタッフに惜しみない賛辞を送りたい。この図録では、すべての作品に関して質の高い解説が付けられており、必要に応じて詳しい説明や明快な表現がとられている。修復部分についても多く触れられており、宝物の保存状態に関心がある人にも有益な情報となるであろう。また、解説文の中では近年の材質調査や研究成果に基づいて、宝物の製作地や年代観を提示している部分も見受けられる。行き届いた配慮に感服させられたが、それだけにもう一つ、私からの要望を挙げさせてもらうならば、上記の所見をキャプションの形で短くまとめて展示会場や図録に明示してほしい、ということである。観覧者は正倉院宝物がすべて奈良時代のもので誤解してしまうかもしれない。例えば、瑠璃壺や銀提子の年代は会場で明示されていなかったが、その特質を理解する上では平安時代に施入された事実をもっと分かりやすく示すべきであろう。同様に、日本以外で製作された宝物にも配慮が欲しい。螺鈿やコハクを散らした中国鏡、ペルシアや中央アジアのデザインで装飾された基盤や合子、花氈、そしてガラスの壺などはあくまでも他国からの舶来品であるが、中には日本製と思う観覧者もいるに違いない。そして、古代の首都奈良は国際都市の賑わいに満ちていたと想像してしまうだろう。このグローバル化の時代においてはなおさらのこと、海外からの観覧者が日本の古代文化の国際性を過大に評価したり、奇跡的な保管を成し遂げたことに過剰な驚きを示し兼ねないのである。

ともあれ、正倉院宝物の際だった美しさは、毎秋、世界中の芸術を愛する大勢の人々を奈良に導き続けるに違いない。私もその一人として、この人間の英知の偉大なる記録の中に自分なりの出会いを求めて、再訪できる日を心待ちにしたいと思う。

（原文英語、抄訳 吉澤 悟）



◎伎楽面[左:迦樓羅, 右:崑崙] (東大寺):本館第8室



紺紙銀字華嚴經[二月堂焼経] (当館):「お水取り」



香水壺(東大寺):「お水取り」

特別陳列 お水取り

2月14日～3月21日 東新館

〈主な出陳品〉

二月堂お水取り絵巻(個人)、◎類秘抄、紺紙銀字華嚴經[二月堂焼経](以上、当館)、東大寺縁起、二月堂曼荼羅、◎二月堂本尊光背、二月堂本尊光背裏面拓本、二月堂本尊天衣片、二月堂縁起、◎二月堂修中日記、◎鏡「堂司鈴」、鏡「咒師鈴」、宝物「花瓶・鏡／五鈴鈴・鏡／鏡・鏡」、◎香水杓、香水壺、朱漆塗香水担台、銅油差し、二月堂食堂机、◎二月堂練行衆盤、◎金銅鉢、鬼瓦[二月堂仏餉屋出土]、緑釉軒平瓦[同前出土]、二彩陶器[同前出土]、二彩水波文埴[同前出土]、墨書土器[同前出土]、錢貨[同前出土]、法螺貝「天法螺」、貝鈴(以上、東大寺)

平常展
仏教美術の名品(彫刻)
1月～3月 本館
◎奈良時代の仏像
第1室
◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦立像及び灌仏盤(東大寺)、◎木心乾漆光背(聖林寺)、塑造侍者坐像、木心乾漆天部坐像、銅造觀音菩薩立像[押出仏・2面]、銅造觀音菩薩立像[仏像型]、◎銅造葉師如來坐像(以上、当館)、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上、興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)

◎平安・鎌倉時代の仏像
第2室
◎木造阿彌陀如來立像(浄土寺)、◎木造伝行賀坐像(興福寺)、木造閻魔王坐像(東大寺)、木造泰山府君坐像(東大寺)、◎木造葉師如來立像(元興寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造葉師如來坐像(当館)
特集展示
◎新葉師寺伝来の十一面觀音像
第3室
◎木造十一面觀音立像(新葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)
特集展示
◎法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像
第3室
◎脱活乾漆阿彌陀三尊像[中の間] (法隆寺)、◎木心乾漆阿彌陀三尊像[東の間] (法隆寺)
◎ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻
第4・6室
ガンダーラ
石造菩薩立像(当館)、ストウツコ如來頭部、ストウツコ如來坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)、石造仏伝図浮彫(当館)
中国
銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿彌陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、◎石造三尊像、◎石造十一面觀音立像(以上、当館)、銅造三尊像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊像、多宝塔像、石造如來頭部「雲圖」、石造菩薩頭部「羣衆」、石造五尊像、石造三尊像、石造三尊像、石造三尊像(以上、個人)
朝鮮半島
銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(当館)
◎檀像
第7室
◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造弥勒坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造十二神將立像「六軀」(東大寺)、◎銅造誕生釈迦立像(正眼寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(悟真寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(木造出山釈迦立像)、◎木造釈迦如來立像「清凉寺式」(以上、当館: 1/17)、◎木造仏涅槃像(照源寺)

◎平安時代後期の仏像
第9室
◎木造十一面觀音立像(松尾寺)、木造釈迦如來坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像(以上、個人)、◎木造增長天立像(称名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、木造阿彌陀如來坐像(当館)、木造大日如來坐像(元興寺町)、木造阿彌陀如來坐像、木造広目天立像(以上、当館)、木造阿彌陀如來坐像(金剛寺)
◎鎌倉時代の仏像
第10室
木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造馬頭觀音立像(浄瑠璃寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)
◎神仏習合の彫像
第11室
◎銅造藏王権現立像(大峰山寺)、木造藏王権現立像(当館)、◎木造八幡三神坐像(葉師寺)、木造童子形坐像、木造男女神像(以上、当館)、◎木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、木造大將軍神坐像(当館)
◎獅子・狛犬
第12室
◎木造狛犬(当館)、◎木造狛犬(手向山八幡宮)、◎木造獅子、木造獅子(以上、当館)
◎神將形の彫像
第13室
◎釈迦信仰の彫像
◎佐井寺僧道榮墓出土品、◎山代忌寸真作墓誌、行基墓誌残片、灰釉平瓶「壺」

◎奈良時代の仏像
第1室
◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦立像及び灌仏盤(東大寺)、◎木心乾漆光背(聖林寺)、塑造侍者坐像、木心乾漆天部坐像、銅造觀音菩薩立像[押出仏・2面]、銅造觀音菩薩立像[仏像型]、◎銅造葉師如來坐像(以上、当館)、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上、興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)
◎平安・鎌倉時代の仏像
第2室
◎木造阿彌陀如來立像(浄土寺)、◎木造伝行賀坐像(興福寺)、木造閻魔王坐像(東大寺)、木造泰山府君坐像(東大寺)、◎木造葉師如來立像(元興寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造葉師如來坐像(当館)
特集展示
◎新葉師寺伝来の十一面觀音像
第3室
◎木造十一面觀音立像(新葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)
特集展示
◎法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像
第3室
◎脱活乾漆阿彌陀三尊像[中の間] (法隆寺)、◎木心乾漆阿彌陀三尊像[東の間] (法隆寺)
◎ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻
第4・6室
ガンダーラ
石造菩薩立像(当館)、ストウツコ如來頭部、ストウツコ如來坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)、石造仏伝図浮彫(当館)
中国
銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿彌陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、◎石造三尊像、◎石造十一面觀音立像(以上、当館)、銅造三尊像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊像、多宝塔像、石造如來頭部「雲圖」、石造菩薩頭部「羣衆」、石造五尊像、石造三尊像、石造三尊像、石造三尊像(以上、個人)
朝鮮半島
銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(当館)
◎檀像
第7室
◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造弥勒坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造十二神將立像「六軀」(東大寺)、◎銅造誕生釈迦立像(正眼寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(悟真寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(木造出山釈迦立像)、◎木造釈迦如來立像「清凉寺式」(以上、当館: 1/17)、◎木造仏涅槃像(照源寺)

◎奈良時代の仏像
第1室
◎脱活乾漆・木造梵天立像、◎脱活乾漆・木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造誕生釈迦立像及び灌仏盤(東大寺)、◎木心乾漆光背(聖林寺)、塑造侍者坐像、木心乾漆天部坐像、銅造觀音菩薩立像[押出仏・2面]、銅造觀音菩薩立像[仏像型]、◎銅造葉師如來坐像(以上、当館)、◎脱活乾漆舍利弗立像、◎脱活乾漆目犍連立像、◎脱活乾漆緊那羅立像(以上、興福寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿闍如來坐像(西大寺)
◎平安・鎌倉時代の仏像
第2室
◎木造阿彌陀如來立像(浄土寺)、◎木造伝行賀坐像(興福寺)、木造閻魔王坐像(東大寺)、木造泰山府君坐像(東大寺)、◎木造葉師如來立像(元興寺)、◎木造十一面觀音立像(葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造葉師如來坐像(当館)
特集展示
◎新葉師寺伝来の十一面觀音像
第3室
◎木造十一面觀音立像(新葉師寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)
特集展示
◎法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像
第3室
◎脱活乾漆阿彌陀三尊像[中の間] (法隆寺)、◎木心乾漆阿彌陀三尊像[東の間] (法隆寺)
◎ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻
第4・6室
ガンダーラ
石造菩薩立像(当館)、ストウツコ如來頭部、ストウツコ如來坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個人)、石造仏伝図浮彫(当館)
中国
銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿彌陀三尊像、方形独尊像、小型独尊像、◎石造三尊像、◎石造十一面觀音立像(以上、当館)、銅造三尊像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊像、多宝塔像、石造如來頭部「雲圖」、石造菩薩頭部「羣衆」、石造五尊像、石造三尊像、石造三尊像、石造三尊像(以上、個人)
朝鮮半島
銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(当館)
◎檀像
第7室
◎木造十一面觀音立像(当館)、◎木造弥勒坐像(東大寺)、◎木造維摩居士坐像(石山寺)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造十二神將立像「六軀」(東大寺)、◎銅造誕生釈迦立像(正眼寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(悟真寺: 1/17)、◎銅造誕生釈迦立像(木造出山釈迦立像)、◎木造釈迦如來立像「清凉寺式」(以上、当館: 1/17)、◎木造仏涅槃像(照源寺)

平常展

仏教美術の名品

(考古・工芸・絵画・書跡)
1月～3月 西新館

〔考古〕(1/28～3/26)

〔先史考古〕

土偶「杉沢遺跡出土」、深鉢形土器「伝青森県・茨城県出土」、銅鉢「長崎県黒島出土」(以上、当館)、銅鐸「妙国寺」、銅鐸「静岡県釣ヶ崎山出土」、石劔・鉄形石・車輪石ほか「北和城南古墳出土」、陶棺「奈良県西大寺出土」(以上、当館)
特集展示「大和天神山古墳の全貌」
◎銅鏡 鉄製武器類一括(当館)
〔歴史考古〕
◎栗原寺伏鉢 談山神社、陶製経筒「愛媛県北条市出土」(当館)、◎藤原道長願経「奈良県金峯山経塚出土」(金峯神社)、銅製経筒「和歌山県粉河経塚出土」(当館)、紙本朱墨交書法華経「和歌山県王子神社経塚出土」(王子神社)、◎銅板経「大分県長安寺経塚出土」(長安寺)、瓦経「福岡県飯盛山経塚出土」、青石経「愛媛県大日堂経塚出土」、泥塔経「鳥取県智積寺経塚出土」(以上、当館)
特集展示「日本瓦の源流」
軒瓦「中国出土・戦国・唐」(高浜市やきもの里から美術館)、軒瓦「朝鮮半島出土・高句麗・楽浪・百濟・新羅・高麗」(当館)
特集展示「火葬墓と墓誌」
◎佐井寺僧道榮墓出土品、◎山代忌寸真作墓誌、行基墓誌残片、灰釉平瓶「壺」



●金銅火焰宝珠形舍利容器
(海龍王寺):平常展



沙門地獄草紙[沸尿地獄](当館):平常展 2/28~3/26



●栗原寺伏鉢(談山神社):平常展

阪寺奥院出土、灰釉短頸壺「茨城県八郷町出土」、青磁碗・皿「島根県荻狩古墓出土」(以上、当館)

工藝

(1/28~2/26)

石製舍利容器「バキスタン・クシャナ朝」、棺形舍利容器「中国・唐」、銭弘俶八万四千塔「中国・五代」(以上、当館)、金銅製舍利容器「朝鮮半島・統一新羅」(個人)、密観宝珠嵌装舍利厨子(当館)、密観宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)、五輪塔嵌装舍利厨子、首掛駄都種子曼荼羅彩絵厨子(以上、当館)、鉄宝塔、金銅透彫舍利容器(以上、西大寺)、金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、百万塔および無垢浄光経陀羅尼(当館)、金銅経筒(施福寺)、金銅透彫経筒(万徳寺)、神護寺経帙(当館)、刺繍阿弥陀三尊来迎図(中宮寺)、刺繍釈迦三尊来迎図(真正極楽寺)、刺繍阿彌如来鏡像(当館)、阿彌如来鏡像(当館)、藏王権現鏡像、千手観音鏡像、地藏菩薩鏡像(以上、当館)、阿彌如来懸仏(個人)、牛皮華鬘「奴号」、牛皮華鬘「留号」(以上、当館)、金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、金銅蓮華文華鬘(神照寺)、金銅透彫幡頭(中尊寺金色院)、錦幡、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶「燕形」、銅仙蓋形水瓶、銅布薩水瓶「鯉口形」、銅信貴形水瓶(以上、当館)、牡丹尾長鳥文堆黒盆(金地院)、銅製柄香炉(高山寺)、金銅火舎(当館)、金銅独鈷杵(松尾寺)、金銅三鈷杵、金銅五鈷杵(以上、当館)、金銅四天王五鈷鈴(弥谷寺)、銅三昧耶五鈷鈴(金峯山寺)、金銅密教法具(厳島神社)、金銅輪宝、金銅羯磨(以上、当館)、金銅透彫華籠(神照寺)、紙胎漆塗彩絵華籠(万徳寺)、銅梵鐘「中国・陳太建七年銘」(当館)

(2/28~3/26)

石製舍利容器「バキスタン・クシャナ朝」、棺形舍利容器「中国・唐」、銭弘俶八万四千塔「中国・五代」(以上、当館)、金銅製舍利容器「朝鮮半島・統一新羅」(個人)、密観宝珠嵌装舍利厨子(当館)、密観宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)、五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)、四方殿舍利厨子(能満院)、鉄宝塔、金銅透彫舍利容器(以上、西大寺)、金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、百万塔および無垢浄光経陀羅尼(当館)、金銅経筒(施福寺)、金銅透彫経筒(万徳寺)、鳳凰文鎗金経箱、刺繍釈迦・阿彌如来像(以上、当館)、刺繍阿彌陀三尊来迎図(個人)、刺繍種子阿彌陀三尊像、阿彌如来鏡像、藏王権現鏡像、千手観音鏡像、地藏菩薩鏡像(以上、当館)、阿彌如来懸仏(個人)、牛皮華鬘「仁号」、牛皮華鬘「和号」(以上、当館)、金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、金銅蓮華文華鬘(神照寺)、金銅透彫幡頭(中尊寺金色院)、刺繍三昧耶幡「二号」、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶「燕形」、銅仙蓋形水瓶、銅布薩水瓶「鯉口形」、銅信貴形水瓶(以上、当館)、牡丹文堆朱香盆(聖衆来迎寺)、銅製柄香炉(高山寺)、金銅火舎(当館)、金銅独鈷杵(松尾寺)、金銅三鈷杵、金銅五鈷杵(以上、当館)、金銅五鈷杵(施福寺)、金銅四天王五鈷鈴(当館)、金銅四天王五鈷鈴(弥谷寺)、銅三昧耶五鈷鈴(金峯山寺)、金銅密教法具(厳島神社)、金銅輪宝、金銅羯磨(以上、当館)、金銅透彫華籠(神照寺)、竹製華籠(性海寺)、銅梵鐘「中国・陳太建七年銘」(当館)

絵画

(1/28~2/26)

釈迦三尊像(総持寺)、釈迦靈鷲山說法図(当館)、釈迦八相図(大福田寺)、

(2/28~3/26)

仏涅槃図(達磨寺)、八相涅槃図(劍神社)、仏涅槃図(浄土寺)、仏涅槃図(正暦寺)、八大仙頂曼荼羅(園城寺)、法華曼荼羅(下部神社)、五大虚空蔵菩薩像(天覚寺)、千手観音像(当館)、不動明王像(石山寺)、十二天像(梵天)、西大寺、阿彌如来像(長谷寺)、理趣経曼荼羅図像(当館)、俱舍曼荼羅、四聖御影(建長本)、鑑真和上像(以上、東大寺)、行基菩薩像(個人)、行基菩薩行狀絵伝(家原寺)、聖德太子像(一乗寺)、一遍聖絵「第一巻」(清浄光寺)

(2/28~3/26)

如意輪観音像、虚空蔵菩薩像、普賢延命像(以上、当館)、五明王像(一乗寺)、五大尊像「不動欠」(観音寺)、十三天像「毘沙門天・月天」(西大寺)、九品来迎図「上品中・下生」(瀧上寺)、阿彌陀三尊来迎図(心蓮社)、阿彌如来像(西教寺)、阿彌陀浄土図(当館)、矢田地蔵縁起(金剛山寺)、地藏菩薩像(知恩院)、地藏菩薩像(地蔵院)、十仏十王像(当館)、十王像(二尊院)、二河白道図(蓮光寺)、沙門地獄草紙「沸尿地獄」(当館)、一遍聖絵「第二巻」(清浄光寺)、泣不動縁起(当館)

(1/28~2/26)

中阿含経卷第九「善光宋印経」(当館)、大般涅槃経卷第十二「中尊寺経」(金剛峯寺)、涅槃会法式(高山寺)、涅槃講式、遺跡講式(以上、当館)、円珍俗姓系図(園城寺)、聖德太子伝暦(本願寺)、額安寺文書「額安寺、夢窓疎石円覚経偈」(当館)、前後「禅院額字」(東福寺)

(2/28~3/26)

大般若経「長屋王願経」(瑞光寺)、大般若経「魚養経」(薬師寺)、彩牋法華経妙音菩薩品(施福寺)、大智度論卷第

七十四「神護寺経」、法華経「色紙経」、大般若経卷第五百十七「東大寺八幡経」、毘尼母経卷第五「足利尊氏願経」(以上、当館)、大福田寺勸進状(大福田寺)、弘法大師二十五箇条遺告「能満院」、談山神社文書「談山神社」、絶海中津墨跡「賈島詩」(慈濟院)、白隠墨跡「中字」(個人)

特別出陳

国宝 木心乾漆薬師如来立像

(唐招提寺金堂)

本館 第1室

平常展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

本館 第14室、第15室

中国・商(殷)漢時代までの青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、斚、方彝、卣、甗、鼎、鬲、鬲、豆、盤、匜、盂、壺、鐘、鈎、扁壺、蒜頭壺、甗、博山炉、鎮子、鏡など

パネル展示

修復文化財

地下回廊

重要文化財 絹本着色四十九化仏阿彌陀来迎図(京都 光明寺)

重要文化財 木造持国天像「内山永久寺伝来」(奈良 東大寺)

国宝 毛抜形太刀「若宮御料古神宝のうち」(奈良 春日大社)

●重要文化財

以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

奈良博 NEWS

茶室八窓庵



春にはカルガモ親子も来ます

茶室八窓庵はもと興福寺・大乗院門跡の庭内に江戸時代中期に建てられた茶室で、東大寺四聖坊の隠岐録（東京へ移設の後、戦災にて消失）、興福寺慈眼院の六窓庵（東京国立博物館苑内に現存）と併せて「大和の三茶室」と称えられました。

作風から大名茶人、古田織部の好みと伝えられており、外観は入母屋造茅葺き屋根の草庵風のたたずまいで「数寄屋ハカヤブキニツキ定也」と述べている織部の理想の造形になっています。内部は横長の三畳台目に台目床と一畳の貴人畳が入り組んでいる鍵状の平面を有します。罫口は正面の土間庇の中央寄りに開かれ、罫口を入ると左に床を、正面に点前座が見えます。天井は床前から点前座まで蒲の平天井とし、他は化粧屋根裏となっています。全体の雰囲気は織部の意匠感覚が濃厚にあらわれている茶室です。

この八窓庵は、地元に永久保存されることを望む奈良在住の篤志家数名の努力によつて当時の帝国奈良博物館へ献納されたものです。明治25（1892）年に博物館の敷地に移設されました。新館開館中のみ、八窓庵外構を一般公開しています。また、お茶会や、句会華道、香道その他少人数の文化に関する会合にご利用いただけます。

奈良公園の中に静かにたたずむ歴史ある八窓庵をぜひ一度ご覧ください。

お問い合わせ・お申し込みは、営業開発担当まで

TEL 0742-22-7771（代）
当館ホームページでも紹介しております
（甲斐優介 当館渉外課営業開発担当）



●公開講座●

1月7日(土) 「公慶上人の生涯」
西山 厚(当館資料室長)

※午後1時30分より(1時に開場・整理券配布)

※当館講堂にて ※聴講無料

●ギャラリー・トーク●

1月11日(水) 「称名寺伝来の仏教彫刻」(於.講堂)
岩田 茂樹(当館美術室長)

2月8日(水) 「火葬墓と墓誌」(於.西新館・考古展示室)
吉澤 悟(当館主任研究員)

3月8日(水) 「お水取り」(於.東新館・特別陳列会場)
西山 厚(当館資料室長)

※午後2時より ※入館者は聴講自由

●次の展覧会のお知らせ●

遠忌800年記念
特別展 重 源(仮称)

会期 平成18年4月15日(土)～5月28日(日)

平安時代末に焼失した東大寺は、鎌倉時代初めには再興を果たしました。その再興に大きな力を尽くしたのが重源です。重源没後800年の節目にあたる本年、重源の肖像や重源が生み出した各種の美術作品、様々な関連史料を一堂に会し、その文化史上の巨大な足跡を振り返ります。

奈良国立博物館 賛助会員 通信

奈良国立博物館では、当館の諸活動を幅広くご支援、ご支持いただける方々を対象として、賛助会員制度を設け会員を募集しております。お預りしました会費は、平常展、教育普及事業、調査研究、出版事業、施設整備等の充実および文化財の購入・修理等に充てさせていただきます。会員となられた方々には、当館の展覧会の無料観覧や図録の進呈、特別展の特別鑑賞会へのご招待などの特典を用意いたしております。皆様のご理解とご賛同をお待ちいたしております。

当制度が発足してはや1年、お陰様で現在、個人会員15名、団体会員8団体および特別賛助会員2団体のご登録をいただくことができました。新規会員となられた方々のご芳名をあげさせていただきます。

- 【個人会員】 溝内 聡 様、森田 尚 様、三田昌輝 様、岡本敏子 様、山影康洋 様、鬼頭宏幸 様、木下義雄 様、坂詰貴司 様
- 【団体会員】 株式会社 奥村組関西支社 様
株式会社 伏見工芸 様
株式会社 天理時報社 様
株式会社 木下家具製作所 様
株式会社 尾田組 様
- 【特別会員】 株式会社 葉風泰夢 様
(ご登録順。2005年12月現在)

※賛助会員に関するお問い合わせは、奈良国立博物館 渉外課 賛助会員担当までお願いいたします。ご希望の方にはご案内を送らせていただきます。
Tel 0742-22-7771 (代)

●展覧会日程●

	1 月	2 月	3 月
本 館	平常展〔彫刻〕・〔中国古代青銅器〕		
東 新 館	特別陳列 お水取り(2/14～3/21)		
	金沢文庫の名宝(～1/15)		
西 新 館	東大寺公慶上人(～1/15)	平常展〔絵画・書跡・工芸・考古〕(1/28～3/26)	

展示品の 見どころ

に がつ どう 二月堂 ほん ぞん こう はい 本尊光背

重要文化財
奈良時代(8世紀)
東大寺

東大寺修二会（お水取り）前半の本尊であり、二月堂の本尊でもある絶対の秘仏、銅造十一面観音立像（大観音）の光背。緊密な画面構成、流麗な動きをみせる刻線はまことに精彩に富み、奈良時代における金工・絵画の代表作として、天平勝宝八歳（756）から翌年頃に制作された大仏蓮弁線刻画に比肩するべき名品である。二月堂の創立年次は確定されていないが、本品の制作は大仏蓮弁より少し遅れるとする見方が強い。現状は寛文七年（1667）の火災で焼け出された断片を復元的に配列したものである。



図版2 ◎二月堂本尊光背（身光）部分

身光表側の図像は、全体として伽梵達摩訳『千手経』に説く、補陀落山における釈尊の説法場で観音菩薩が大悲心陀羅尼の力で光を放ち、千手千眼を備えたという奇蹟を描いている。十一面千手観音を中心に、周囲の上半には格子状の区画に一体ずつ計52体の坐仏を描く。下半には14体の菩薩と、28体の尊像に梵天・帝釈天及び四天王を加えた総

勢34尊からなる群像をおく。菩薩は観音の神変の場に居合わせた十四菩薩、他の三十四尊は大悲心陀羅尼を護持する者を守る尊格で、後世の二十八部衆の前身といえる。また52体の坐仏は、『華嚴経』入法界品にいう善財童子の善知識歴参の過程（さとりに至るまでの53段階）が、観音（善知識の一人でもある）が化現させる仏たちとの出会いを介して、一挙に成就することを示す図像と考えられる。



図版1 ◎二月堂本尊光背（身光）

拓本によってのみ図様が知られる裏面には仏教的世界観が表現されているが、これは天界の頂上から最悪の世界である阿鼻地獄に至るまで、仏菩薩の放つ光明あるいは救済が及ぶことを可視化した図像にほかならず、やはり表側に表現された観音の神変と不可分の関係にある。

二月堂本尊というまでもなく十一面悔過の本尊だが、本品にはこの儀礼をとおして同像が引き起こすと期待された神変が、動的に表現されていると考えられる。その図像には、当時の悔過儀礼に期待されたとされる「現世利益」の次元をはるかに超えた、めくるめくような宗教体験に関わる内容が含まれている。奈良時代の悔過の構造と本質を考える上で重要であるのみならず、仏像が単なる彫像ではなく、今ここに実在するほとけとして造立され、礼拝されたことを明確に物語る遺品としても、その価値ははかりしれない。

（当館企画室長 稲本泰生）

特別陳列「お水取り」にて 2/14～3/21まで展示

開館予定（1月～3月）

■開館時間 9時30分～17時
（ただし1月8日（日）、2月3日（金）、3月12日（日）は19時まで）
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日（ただし1月2日、1月9日、3月6日、3月13日は開館し、1月1日（日）、1月10日（火）は休館）

■観覧料金

特別展「金沢文庫の名宝」・「東大寺公慶上人」

	大人	大学・高校生	中学生以下
当日	1,000円	700円	無料
前売	900円	600円	
団体	900円	600円	

平常展・特別陳列

	大人	大学・高校生	中学生以下
一般	420円	130円	無料
団体	210円	70円	

*団体は責任者が引率する20名以上。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内） TEL. 0742-22-7771 FAX. 0742-22-7221 テレホン・サービス 0742-22-3331 ホームページ（URL）<http://www.narahaku.go.jp/>